

さいたま市障害者社会参加推進センターだより



ぷらネット

第27号



オストメイトのための医療講習会

平成27年2月15日(日)
浦和ふれあい館

講師：茂田 浩平 氏 さいたま市立病院外科医長
佐々木智子 氏 皮ふ・排泄ケア認定看護師

公益社団法人
日本オストミー協会
さいたま市支部

6月22日の「手話」をスタートに十二事業を展開

進化する医療 やさしく寄添う活動

平成二十六年度さいたま市社会参加推進センター事業

人間が生きるための機能、食
べること飲むこと、そして余分
なものを排泄することについ
て、病気などのため正常な機能
を失った時、人はどういう手段
を持っているのでしょうか。
健康な人には考えられないこ
とを、私はこの事業に関わって
知ることが出来ました。オスト
マーのための公衆トイレも増え
ています。
与えられた人生を、社会人と
してさりげなく懸命に生きてい
る方たちに、精いっぱいのエー
ルを送ります。

(A)



障害のある人を支える 成年後見制度

一般社団法人
さいたま市手をつなぐ育成会

開催日：11月28日(金)

今年の「家族教室」は、障害のある人を対象に、成年後見人のある人を対象に、「いきいきネット」をされている「いきいきネット」の理事高野淑恵様に、成年後見の現状と課題についてお話しいただききました。百名近い参加者数は、この制度について関心が高い事を物語っています。



講師はいきいきネットの高野淑恵氏

講師は障害のある人の親としての立場から、知的障害者には身上監護が一番に必要なことと、後見人の選定には資格を有する方より障害当事者の生活を理解した方を選ぶことの重要性を分かり易く語っていただき、体験談をもとに話を進める会場からは、笑いが起きるほど、成年後見を身近に感じるようになりました。

また、親の思いを引き継いで支援に繋げる役割が後見人に求められる事を強く語られました。障害のある人にとって後見人は、今後重要な意味を持つて来ます。

現状では改善の必要性が有る成年後見制度ですが、障害種別の枠を超えて障害のある人の生活を支える制度にするために、声を繋げる事が重要になるとの内容であったと思います。

さいたま市手をつなぐ育成会

黒澤 篤子

共に作ろうみんなの輪 Part 7

ホリスティック医学とは

講師：降矢 英成 氏

開催日：2月11日(水)

浦和コミセン15集会室



主催：さいたま市精神障害者当事者会
ウィーズ

私たち、さいたま市精神障害者当事者会ウィーズでは、去る二月十一日(水)建国記念の日に浦和コムナール9階第十五集会室にて、生活訓練「ホリスティック医療と精神疾患」と題して学習会を開催させていただきました。

講師には、NPO法人日本ホリスティック医学協会副会長で赤坂溜池クリニック院長の降矢英成先生にお越しいただきました。

参加人数は五十九名でした。

先生には「ホリスティック」の定義から、先生が行っている

森林療法の話、さらには「幸福感を持てる人の共通の特徴」までお話しいただきました。

今年が初めて企画した学習会で、会場も最初に大きなところを取ってしまい「人が来なかつたらどうしよう」と、不安だらけでしたが、ふたを開けてみれば、たくさんの方に来ていただき、また会のメンバーやさいたま市、さいたま市障害者協議会に助けられながら成功することができました。

ありがとうございました。

さいたま市精神障害者当事者会

ウィーズ 稲葉 晃

社会福祉協議会の事業

開催日：10月19日(日)

与野本町コミュニティセンター

講師：久保田 賀津弥 氏

主催：さいたま市身体障害者福祉協会

本会は、県内でも最古に発足した団体です。このためほとんど高齢者で、平均年齢は七十歳を越えます。

社会福祉協議会「社協」とはどのような

事業を行っているのか、そして障害者・高齢者に対しての支援はと、事務長久保田賀津弥氏に絞って講演をお願いしました。注目した支援事業は介護保険にかかると前の支援事業です。

●あおぞらサービス事業

在宅で生活する単身高齢者・障害者等のうち、家事等の支援を必要とする者に対し、近隣住民（登録者・協力会員）による援助を行う。

●ホームヘルパー派遣事業

要支援・要介護状態になる恐



れの高齢者及び身体または環境上の理由により日常生活を営むことに支障のある障害者・高齢者に対して生活援助員を派遣し、自立した生活を送ることが出来るように援助を行う。

●一人暮らし高齢者・障害者
安否確認事業

単身高齢者・障害者で、安否確認を希望する方に対して、専門のスタッフが定期的に電話をして、安否確認及び必要に応じた各種相談に応じる。

このほか「宅配食事サービス事業」「日常生活支援事業」「緊急資金貸付事業」等多彩な事業を行っています。

さいたま市身体障害者福祉協会
田口秀之助

たのしいみんなのコンサート

講師：金子良美氏 高柳百花氏
早川絢子氏 大澤愛美氏

開催日：十二月十四日(日)

主催：埼玉県自閉症協会さいたま市地区

刺激に敏感で、日常生活ではない場所、行事では奇声を発したり、多動になりがちな自閉症児・者に音楽会の敷居は高いです。自閉症児者が参加しにくい音楽会を障害児者とその家族が一般の人達と共に楽しみたい。この音楽会を開催しました。



十二月十四日、与野コミュニティセンター大ホール会場の片隅に、子供たちの共同作品「たのしいサーカス」のオブジェを展示し、音楽家のグループ「音もだち」の歌のお姉さん達をお迎えしました。

第一部は、童謡からクリスマスソングを4人のメンバーに演奏していただき、第二部は楽器を使って参加者も歌ったり、踊

ったりと音楽を楽しみました。終了後のアンケートには、毎年障害者が気兼ねなく参加ができる音楽会を企画してほしいとの声も多数寄せられました。

音楽家の美しい歌声、人前で楽しんで歌う参加者達を笑顔で見守る親御さん達、障害がある人もない人もみんな楽しんでんだ年の瀬でした。

埼玉県自閉症協会
さいたま市地区 中野 昭江

知れば知るほど 奥深い手話の世界

さいたま市聴覚障害者協会

講師 那須 英彰 氏

日本手話研究所研究員

今年度の「生活訓練事業」でのテーマは「知れば知るほど」奥深い手話の世界」でした。

手話は言語という理解がまだ普及していない今、俳優、NHK手話ニュースキャスターを務めている那須英彰氏に、手話の翻訳について講演していただきました。

手話ニュースでの裏話から、手話通訳者、手話を勉強している健聴者にとっても貴重な体験を話してくださいました。

また、全国手話研修センターの研究員でもある講師は、手話を音声化することの難しさ、そして、音声を手話化する際の注意など、興味深い話もありました。

聴覚障害者は目に見えない障害者であるために、耳が聞こえ

ないだけの障害としか見られませんが、聞こえない人の暮らしを知らないのが実情です。聞こえない人の暮らしには手話は不可欠です。そこで、聴覚障害者協会は、「手話は言語」をもっと普及しなくてはならないと思っています。

そういう私達の思いを那須講師は、みごとに受け止め、説得力のある講演をしてくださいました。しかし、講演を聞いた参加者の殆どは手話関係者ばかりだったのが残念です。

他の障害者団体でも、当事者や関係者だけに留まっているのではないのでしょうか？ 広く社会に広めていきたいと思えます。

さいたま市聴覚障害者協会

青山 淑子



Let's enjoy!

～色で遊ぼう～

9月20日(土)

与野本町コミセン

講師：中津川 浩章 氏



心も体も解放されたように、大きな紙一面に赤、緑、黄色など何色もの彩が描かれました。

大きな紙なのに隅の方で小さく描く子。裸足になり、紙の上を自由に描く子。紙では物足りなく、自分の体をキャンパスにする子。さまざま方法で個性豊かに描いています。

美術家・埼玉障害者アート展アートディレクター・和光大学非常勤講師の中津川浩章先生の指導の下、どんだん心が解放され、みんなの描いたものが、素敵なアートに変身されていきま

した。最初は大きな紙に戸惑いを隠

せなかつた子供たちも、どの子も天才芸術家に見えました。

小さい時期は、療育施設などで体いっぱい表現活動していても、年齢が上がるにつれて、中々大胆に表現活動をする場は減っていきます。気持ちのいい活動をさせていただきました。

絵を描くことは、いつでもできることです。余暇を過ごすとき、筆を執りその時の感情のまま色を使って描くことは、心が解放され、大事な余暇活動につながるのではないのでしょうか。今後、気軽に描いていけたらと思います。

さいたま市ダウン症連絡会

山口 佳住

平成26年度 社会参加推進センター開催事業報告

事業名	開催日 / 場所	参加者数	テーマ・内容等
生活訓練開催事業（身体）	6月22日(日) 埼玉県障害者交流センター ホール	118名	「知れば知るほど奥深い手話の世界」 手話言語法、手話言語条例制定運動の理解を深める 講師：那須 英彰氏 日本手話研究所研究員
生活訓練開催事業（知的）	9月20日(土) 与野本町コミュニティセンター 多目的室（大）	81名	「Let's enjoy!」～色であそぼう～ 色を使って表現してみよう 講師：中津川 浩章氏 埼玉県障害者アートディレクター
生活訓練開催事業（身体）	9月20日(土) 浦和コミュニティセンター 第13集会室	60名	「第3回障害があってもありのままに生きたいんです！」 重度障害を持っている当事者による講演 講師：岩出 幸子氏・羽富 拓成氏
生活訓練開催事業（身体）	10月19日(日) 浦和コミュニティセンター 第15集会室	70名	「肝炎の最新治療と今後の展望」 革新的な新薬の開発に伴う治療方法と療養の在り方 講師：日野 邦彦氏 デルタクリニック院長
家族教室開催事業（身体）	10月19日(日) 与野本町コミュニティセンター 多目的室（小）	37名	「社会福祉協議会の事業について」 障害者・家族・高齢者などに役立つ講演 講師：久保田 賀津弥氏 さいたま市社会福祉協議会事務局長
家族教室開催事業（精神）	11月16日(日) 浦和コミュニティセンター 第15集会室	123名	「ちょうどよい薬の量のおはなし」 疾患を抱える人がより良い生活をおくるために 講師：渡邊 博幸氏 千葉大学医学部付属病院勤務
家族教室開催事業（知的）	11月28日(金) 浦和コミュニティセンター 第15集会室	92名	「障害のある人を支える成年後見制度」 障害のある人の支援状況を詳しく学び将来に備える 講師：高野 淑恵氏 成年後見センター いきいきネット理事
「障害者週間」 市民のつどい	12月6日(土) 埼玉県障害者交流センター	623名	「障害者週間」を記念して広く障害のある人もない人も一緒に楽しむ催し 市セレモニー、障害者作品展、わたり としお氏講演、当事者による演奏、手話落語、小学生合唱、授産品の販売、手話講座、統合失調症の紙芝居、視覚障害者卓球（STT）
生活訓練開催事業（知的）	12月14日(日) 与野本町コミュニティセンター 多目的室（大）	70名	「たのしい みんなの コンサート」 若い音楽家グループ「音もだち」によるコンサート 講師：金子 良美、高柳 百花、早川 絢子、大澤 愛美
家族教室開催事業（知的）	12月18日(木) 埼玉県障害者交流センター ホール	64名	「災害から障害者の生命を守る!!」 生命のことづけ・被災地支援の報告 講師：郡 信子氏 南相馬市ディさぼーとぴーなつつ所長
生活訓練開催事業（身体）	27年 1月27日(火) 大宮ふれあい福祉センター 304会議室	62名	「膠原病の診断と治療」 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎、皮膚筋炎 講師：中嶋 京一氏 国立病院機構東埼玉病院
生活訓練開催事業（精神）	27年 2月11日(水) 浦和コミュニティセンター 第15集会室	59名	「共に作ろうみんなの輪 Part 7」 ためになる心療内科医のお話 ホリスティック医学とは 講師：降矢 英成氏 赤坂溜池クリニック院長
生活訓練開催事業（身体）	27年 2月15日(日) 浦和ふれあい館 第一会議室	75名	「オストメイトのための医療講習会」展示会 講師：茂田 浩平氏 さいたま市立病院外科医長 佐々木 智子氏 皮膚・排泄ケア認定看護師

鼎談

障害者団体の活動 高齢者が多くなっているけど…

出席者 (アイウエオ順)

浅輪田鶴子 (さいたま市障害者協議会)

新井 真一 (埼玉県障害者協議会)

久保田賀津弥 (さいたま市社会福祉協議会)

宮部 幸子 (さいたま市をつなぐ育成会)

障害者協議会開設のとき

お手元にお渡ししたのは、平成一六年三月に発行した「ぷらネット」第一号のコピーです。

この前年の平成一五年十月一日に、「さいたま市障害者連合会」が発足し、翌年障害者協議会がスタートしました。

今から一二年前という私も六十代、体力も知力も衰えてはいなかったはずで、埼玉県の交流センターには及ばないけど、せめて団体交流室をお願いして、障害福祉課のご努力で現在のふれあい福祉センター4階に団体交流室を設置していただきました。

振り返ってみ

ると、多くの好条件に囲まれたラッキーなスタートでした。

十二年という

歳月は若者を中年のおじさんおばさんにし、おじさんおばさんを高齢者という立場にしてしまったから？、ただそれだけでしょうか。

障害者団体という重い荷物を無我夢中で引っ張ってきた一人として、領域を狭くして障害者全体に関心が薄くなったこのフールドを、もう一度掘り返してみたくて、この鼎談を企画しました。

年月を経て何が変わったのか

浅輪 外から見ているからなのかもしれないですが、さいたま市の団体交流室利用の障害者団体



の中で、一番活発に動いているのは「市手をつなぐ育成会」かなと思っていいるんですが…

聴覚とか視覚の障

害者団体は、昔は大変ご苦労されたということをお聞きしていますが、現状はサポートするシステムがしっかりしているように感じられる。これは、先達である聴覚の川合さんや視覚の長根さんのご努力が大きいと思いますが、それを維持していくのも組織の力ですね。

それにしても、この頃の社会の動きは、群れない、繋がらないという傾向がみられて、組織を作ること自体が危うくなっているのかと感じるんですが…

新井 繋がらなくても済む社会になっっているんでしょうね。昔、共同事業が社会を繋げて

いた時代があったんだけど、今は、個を尊重する時代になっているんですね。

この間電車の中で家族らしい人を見かけたけど、みんな一人ひとりスマホに熱中していて、会話をしているわけでもない。これが、今の社会を反映しているんでしょう。

元いた職場の人に聞いてみても「たまには飲みに行こうか」なんて言う話はなくなっってと言っていましたね。

久保田 我々が就職したところの話ですけど、仕事が終わってみんなでお茶でも飲みに行こうかといったら、残業代が出るんですかって言われたんですよ。

翌年からはやらなくなりましたね。

新井 横の繋がりがなくなったのは障害者団体に限らずだろうと思いますね。

だけど、既存のところに入っただけ、緊張しちゃうから、だったら、新しい組織を作りま

しようということになるんじゃないでしょうかね。

浅輪 最初は新鮮に見えても、十二年も経ってみればやることは限定されてくる傾向はあります。同じことを繰り返しやるとか…。

新井 横つながりは、地域だつて無くなっていますよ。埼玉県障害者協議会は三十九団体あるんです。

おれたちは違うんだっていうのがあるんですね。どこを基準にするかっていえば、理念がずれている、より困難な人が中心になるべきではないか、作られた歴史が違う…。干渉されるうつつうしさがあるから、みんなバラバラになっていくのかもしれないですね。根っここのところを大事にしないとな。

高齢者問題は

久保田 話が少しずれたかなと思います
が、高齢者の話です



よね。狭間にあるような人もいますよね。

浅輪 家族と一緒にいたって、孤立している障害のある老人もいるんじゃないませんか。

新井 今は改めて、そういう組織を作らなければいけないのかなと思いますけどね。

浅輪 育成会は、今、会員が増えていくんですか。

宮部 残念ながら会員は減少傾向にあります。自分の経験からいって子どもの障害を受け入れることは難しいですね。

育成会のいいところは、子どもの年齢もとても幅が広いという事なんですよ。

小学校に入学するのに、学校選びに悩んでいる親御さんがいると思えば、一方では就職するか施設に通わせるか決められない親がいる。

その周りには幅広い年齢層の経験豊かな親も

いる。

その人たちの話を聞き、家族教室などで学習する機会もあるんです。

こうした機会を重ねて親御さんは自信をもってくれるといいなあと、思っています。を計画しています。

話し合いを終えて

障害者に限らず、組織の高齢化はどの

分野でも問題になっているのでしよう。話し合ってみても、この環境を打開して全体を若返らすことについての妙案は見つかりませんでした。

世の中がどう変わろうと、人は一年に一つ年を取ります。高齢者も若者も、お互いを尊重するという気持ちを持つことが大事。

群れることが好きでなくても、組織の中で生きて行く力は

必要だと思いませんか。

障害に係る活動もいろいろですが、親としては大人になった時豊かな地域環境を構築したいと思つて活動した人も多いのです。

こういうことは、一人ではできません。

人はみな、地域の人として生きていくものであり、手をつないで助け合っていくもの。障害者協議会が出来ることは何か、模索中です。



第49回 日本盲人会連合関東ブロック協議会 さいたま市大会

活発もぶれた二日間

会期：平成二十七年二月二十七日・二十八日
会場：さいたま新都心 ラフレさいたま

平成二十七年四月二十七日、二十八日にラフレさいたまにおいて「第四十九回日本盲人会連合会関東ブロック協議会さいたま市大会」が開催されました。

この大会は、視覚障害者の団体である日本盲人会連合関東医ブロック協議会加盟十三団体が毎年持ち回りで行われている福祉大会です。

今年には本会が主催団体として以下のスローガンの下、にぎやかに開催されました。

一、視覚障害者の安心安全な外出ができる社会を実現させよう

二、緊急時、速やかに暖かな支援が受けられる社会を実現させよう

三、視覚障害者の安定した職域が広がる社会が実現させよう



四、社会に潜む犯罪や危険から守れる環境づくりを実現させよう。

二項目目の「暖かい」は、よりあたたかい気持ちを強調した

く、あえてこの字を使いました。参加者は延べ三百五十名ほどでした。

主な開催内容は、式典、講演ののち、五十項目以上の生活バリアフリー、職業に関する諸問題が活発に討議されたことです。

その中から特に重要と思われる事項が、全国大会にも提出されます。

機器の出展、おみやげ出店などあり、たいへん賑やかな二日間でした。

大会運営には、延べ八十名のボランティアの皆さんに会場案内から誘導など、全面サポートをいただき、大会を支えていただきました。

この大会が単にお祭り騒ぎではなく私たちのより良い生活に繋がっている大会であってほしいと願っています。

特定非営利活動法人

さいたま市視覚障害者福祉協会

藤崎 明美

事務局だより

桜の季節が目の前にやってきました。東京なら上野とか靖国神社とか、あ、ちよつと古いかな！

咲いているうちはホントにきれいですけど、雨に打たれたりすると見るも無残な姿になる。

これが何とも痛々しくて、私は雨が降った後の花見は行きたくない。

散って泥まみれになった花卉の上を、水しぶきをあげて蹴散らしていく車の轍を見て、呆然と立ちすくんでいたこともあった。

でも、桜はいい。来年も、特別のことが無ければちゃんと咲ける。

生きていけばいいことも嫌なこともあるさ。それをアツケラカンと切り抜けていく力は、嫌なことも何気なく受け止める経験をたくさんすることでしょうね。

がんばれわたし！

(A)

発行 さいたま市障害者

社会参加推進センター

〒330-0801

さいたま市大宮区土手町

一・二二二一

大宮ふれあい福祉センター4F

TEL 〇四八・六五三・七二七一

FAX 〇四八・六五三・七三二一

http://www.saitama-plane.com/

e-mail saitamacity-handynet@

bz03.plala.or.jp

発行・編集人 浅輪 田鶴子